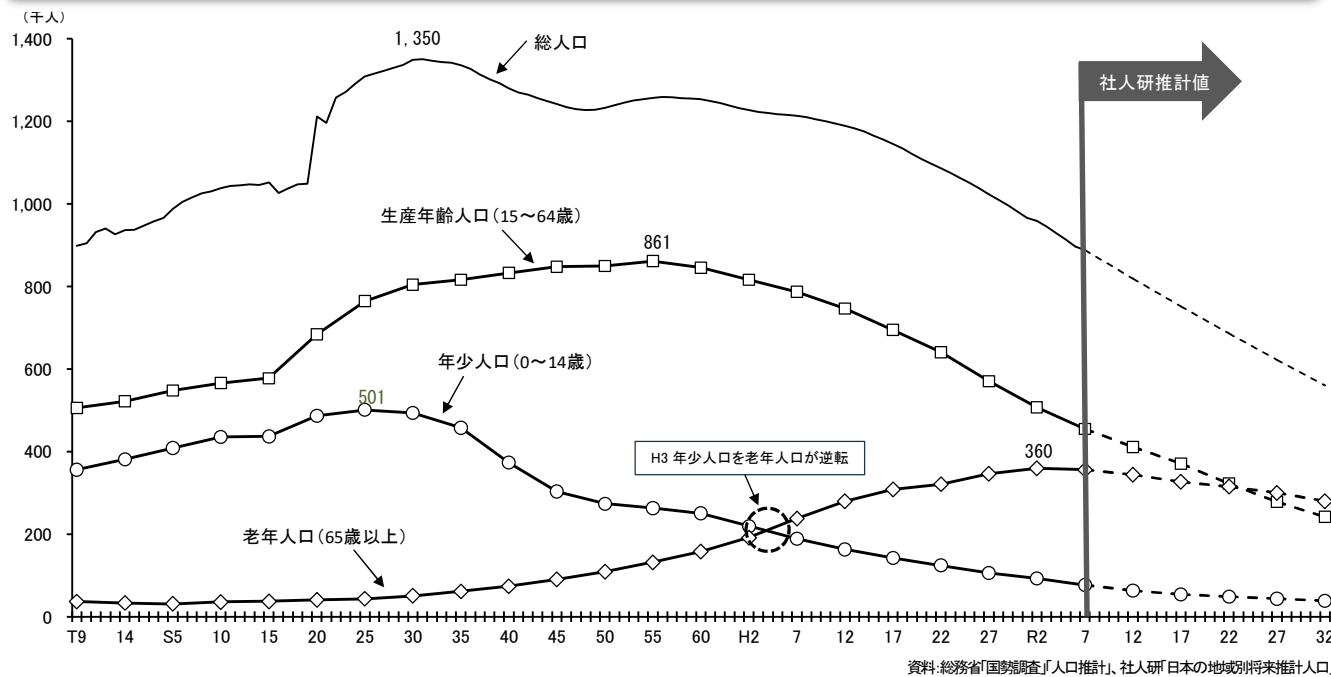


人口動向分析の概要

1 時系列による人口動向分析

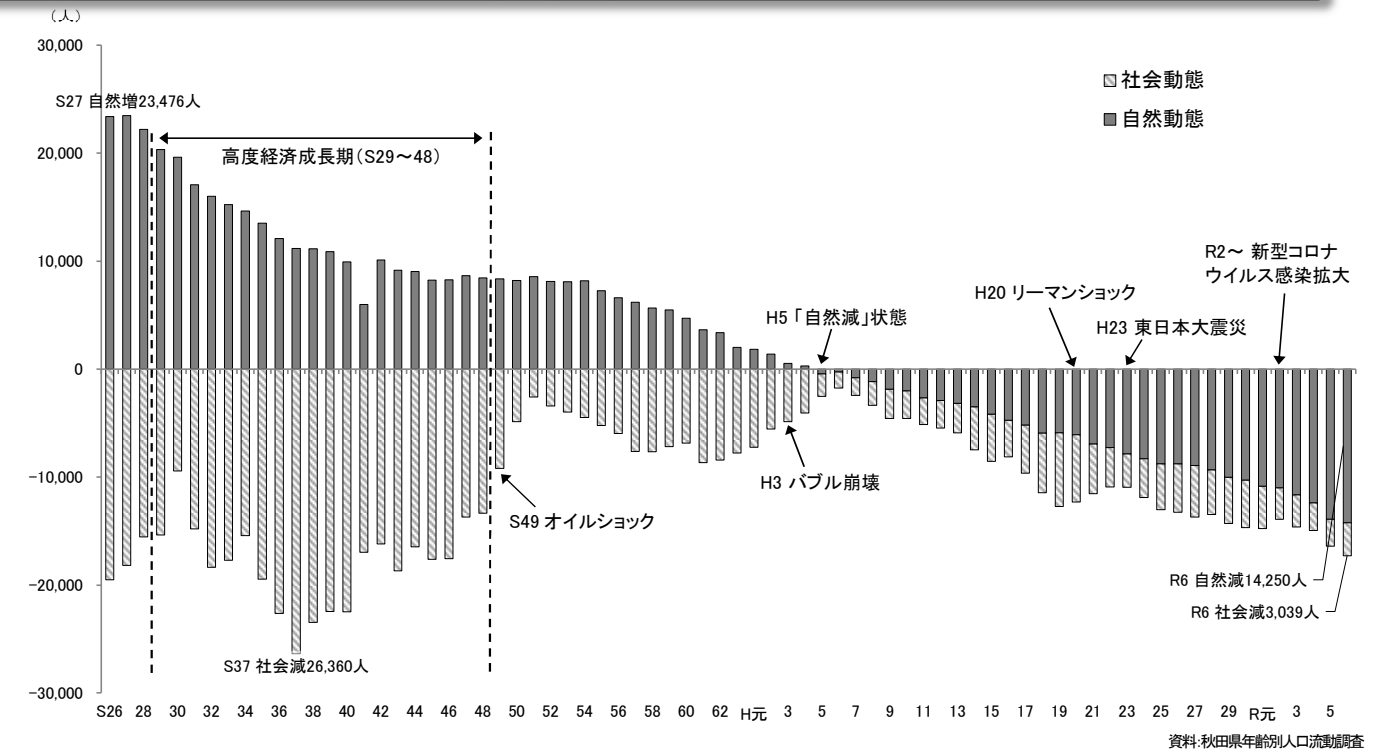
(1) 総人口・年齢3区分別人口

- ◆本県人口は、昭和31年の135万人をピークに減少し、令和6年は約89.7万人
- ◆本県の人口減少率は12年連続で全国最大（令和6年の対前年比△1.87%）
- ◆年少人口及び生産年齢人口は減少を続けている
平成3年には老年人口が年少人口を上回り、近年では老年人口も減少



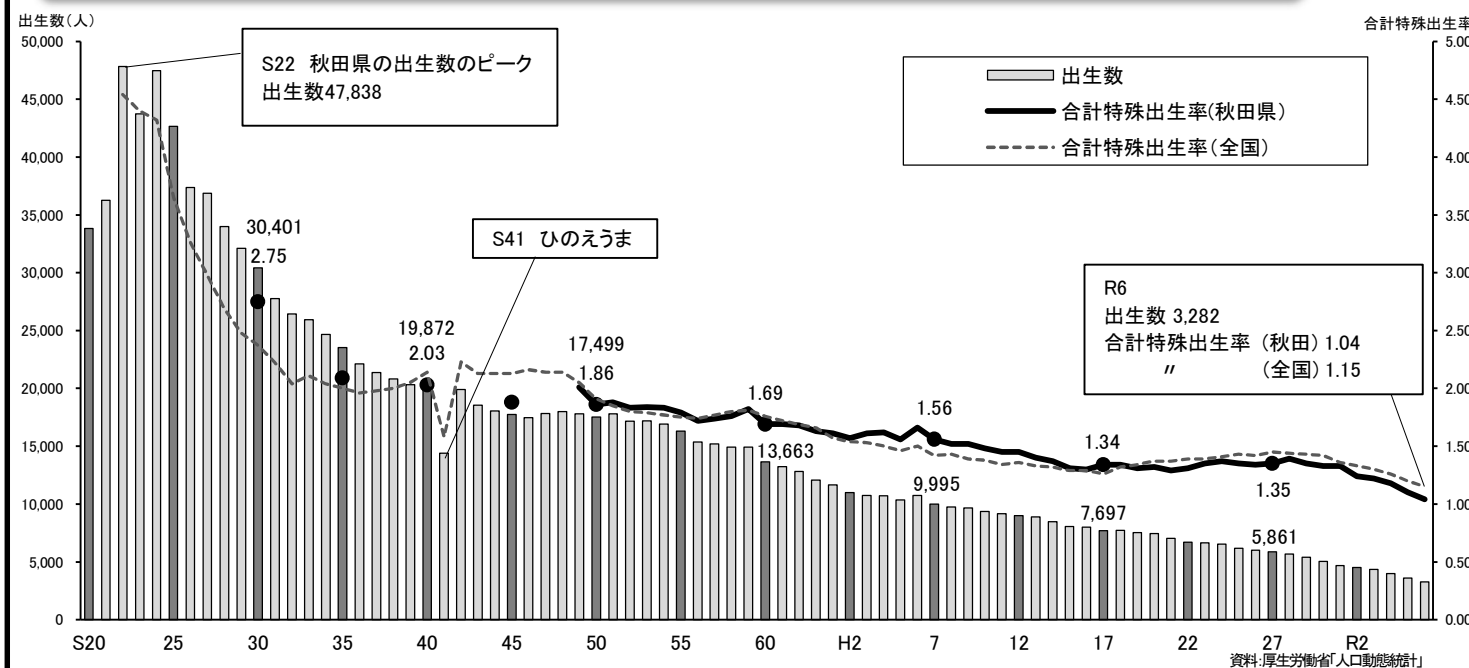
(2) 自然動態・社会動態

- ◆平成5年以降、死亡数が出生数を上回る「自然減」状態が続いており、令和6年は14,250人の減
- ◆調査開始時（S26）以降、一貫して「社会減」状態が続く（令和6年は3,039人の減）



2 出生・婚姻に関する分析

- ◆出生数は、昭和22年の4万8千人をピークに減少傾向が続いており、令和6年は3,282人
- ◆合計特殊出生率は減少が続いており、令和6年には1.04となっている
- ◆婚姻件数は減少傾向にあり、平成17年に5千組、平成25年に4千組、令和2年には3千組を割り込み、令和6年は2,247組



3 人口移動に関する分析

- ◆15～24歳の転出超過が突出しており、進学や就職に伴う転出が主たる要因である
- ◆東京圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）や仙台市を中心とした東北エリアへの転出が多い

